

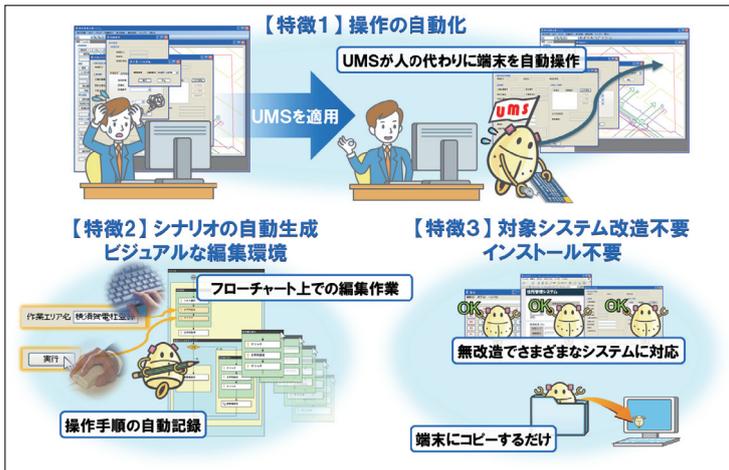
《端末操作自動化ツール(UMS)の環境貢献度評価》

— 情報ネットワーク総合研究所アクセスサービスシステム研究所 —

● 端末操作自動化ツール(UMS)とは

UMS(Unified Management Support System)は、オフィス作業で発生するWindows端末上の作業を、誰でも手軽に自動化できるソフトウェアです。

UMSはNTTアクセスサービスシステム研究所で開発されました。NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズ、NTTドコモのさまざまな部署で活用され、実績をあげています。幅広い適用領域を持つ汎用的な技術であり、NTTアドバンステクノロジーより「WinActor」として商品化されています。



UMS の概要

● UMSの環境貢献度評価

NTTコミュニケーションズでの活用事例(お客様情報の変更業務への適用)を評価モデルとして、UMS導入前後のCO₂排出量を定量化し、環境貢献度評価を行いました。

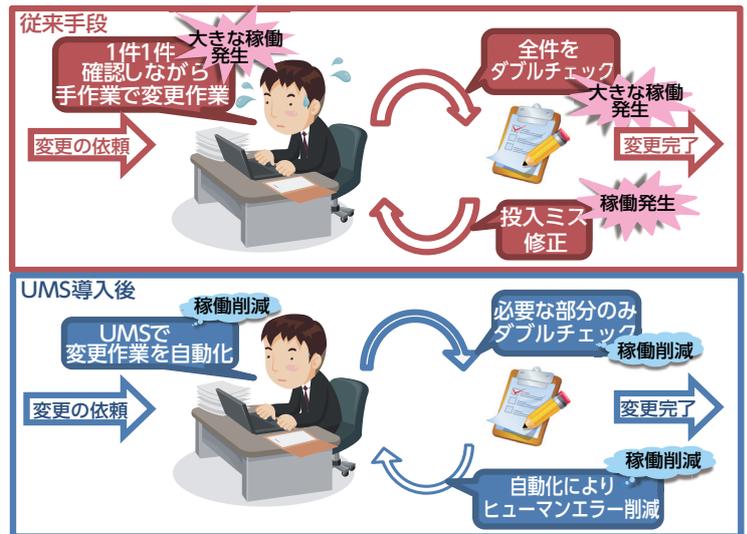
◆ 評価条件

変更処理件数: 18,000件/年
UMSシナリオの利用期間: 2年

◆ 評価モデル

一件一件内容を確認しながら手作業で変更作業を行い、変更内容のダブルチェックや投入ミスの修正に多くの稼働が発生していました。

UMS導入後は、変更作業の一部を自動化することにより、変更作業の稼働が削減された他、確実に作業ができるため、ダブルチェックや投入ミスの修正に係る稼働が削減されます。



評価モデル

◆ 評価結果

UMSのCO₂排出量削減効果は、約6.8t-CO₂/年(削減率27.6%)となりました。

主な削減要因は、PCの操作が自動化されたことによる人の稼働の削減効果であり、UMS導入前と比べて導入後には人の稼働の約40%が削減されています。

